

五眼 - 知識欲と智慧 -

(私たちがしるべきものとは何か? 知りたいとする欲望が人間を苦しめることと安心させることの違い)

1. 五眼 (物事を見る五つの見方) - 釈尊の教説 -

- () 眼→常識、生まれつき持った見方
ex. あるがままに感ずる (暑い、寒い、悲しい、嬉しい etc)
- () 眼→知識、教育による見方 (常識の延長) 科学者の目
ex. 望遠鏡、() etc
- () 眼→個々の道理を見る目
ex. 花の道理、月の道理、コップの道理、人間の道理
ex. 千眼天子 (阿那律) →肉眼がつぶれ、慧眼が開かれた
- () 眼→悟りの目 (ものの本質を見る目)
ex. () を見る目
- () 眼→『仏の目は四大海水の如し』
生きる者全てをわが子のように感ずる目、差別の無い()の目
ex. 「一切の有情は世々生々の父母兄弟なり」(歎異抄第5章)

2. 知識と智慧

知識 () 智慧 ()
(世間の知恵) (出世間、仏道の智慧)

- | | |
|-----------------------------------|------------------------|
| () = 自分を抜いて考える) | () = 自分との係わりで考える) |
| () = 目を開いて見る・考える) | () = 目を閉じて見る・考える) |
| () を傾けて考える | () に手を当て考える |
| 所有できるが失う時もある | () につく、忘れない |
| 知識資本 (覚える、積み重ねていく) | 磨いて行く、一瞬に目覚める |
| () のよい人向き | 頭の良し悪しに関係ない |
| () にも使える | () には使えない |
| 憂いや () が伴う | 喜や () が伴う |
| 矛盾を () する | 矛盾を () |
| <u>分かったという断定</u> $2 \times 2 = 4$ | <u>分かっても分からない</u> |
| 無限に求めても安心する事がない | 親の愛は分かるがその深さは分からない |
| 分かれば () と云う事がある | 南無 <u>不可思議</u> 如来 |
| 条件、() | 安心して無限に求められる |
| (これら知って何かに使う) | 智慧は分かったから止めると云うので無く無限に |
| 知る | 聞いて行く (聞法の生活) |
| | 目的そのもの |
| | うなずく、目覚める |

ex. 『周利槃特』の話 → 「塵を払え、垢を除け」、『目前心後』 → 世阿弥の言葉

自己評価 (今日の授業を受けて)

該当に○をつける A:積極的に参加した B:普通 C:あまり関心がなかった。

感想欄 (今日の授業を受けて)